

やなわがわ

2月1日

今号の内容

◆水郷柳川ゆるり旅 始めます	2~5							
◆柳川市消防団出初式ほか	6~7							
◆六合地区で防災地域づくり研修会ほか	8							
◆生菓子づくり体験参加者募集ほか	9							
◆市民のひろば (10-11)	◆川柳 (11)	◆図書館・水の郷ニュース、柳川百選まち歩き (12-13)	◆情報わいど (14-19)	◆かんぱったね・ぬくもり (20)	◆柳川にこの人あり 荒巻将道さん (20)	◆もちふみデビュー (21)	◆保健ガイド (22-23)	◆新市史抄片 (24)



晴れ着姿に彩られ みんなと共に新たな門出

1月13日、市民会館で成人式が行われました。今年の新成人は751人。式典で金子市長は、昨年ノーベル賞を受賞した京都大学の山中伸弥教授の言葉を引用して「9回の失敗があつて1回の成功がある。失敗を恐れず挑戦してほしい」と新成人にエールを送りました。新成人を代表して河村彰大さんが「教員として子どもと地域に携わっていきたい」と決意表明。新成人たちは、久しぶりに再会した友人や恩師らと記念写真を撮ったり、思い出話に花を咲かせたりして新たな門出を祝いました。

田中吉政の筑後拝領の時期



田中吉政像 (眞勝寺蔵)

慶長5(1600)年、関ヶ原の合戦で西軍についた立花宗茂は柳川を改易されます。それに伴い、徳川家康に与した岡崎城主の田中吉政が筑後を拝領します。吉政は、翌6年3月に徳川家康から入国の許可を得て、4月中旬に筑後へ入りました。今回ご紹介する史料は、その慶長6年正月に田中吉政が出した寄進状(広島大学文学部所蔵猪熊文書)です。猶以つて正月・五月・九月の御祈禱の御札 銘々へ上るべき事御油断あるべからず候、以上、秀頼様・政所様・御上様・内府様・中納言様・結城様・下野様・満千代様御祈禱のため、筑後において以来迄百石参り候の間、弥御宝前において御武運長久の御祈念尤もに存じ候、

これは、京都市右京区の愛宕神社にある教学院尾崎坊へ宛てられたもので、吉政は豊臣家と徳川家の祈禱料として百石を寄進しています。愛宕神社の本地仏は勝軍地藏と名付けられ、これを尊崇すれば合戦において勝利を得られると信じられていました。この愛宕信仰は、中世以来特に武家の間で広まったもので、この寄進状にも「御武運長久の御祈念」とあるように、その信仰の中で出されたものであることが分かります。また、ここで祈禱を捧げられているのは、豊臣秀頼とその母の茶々、秀吉正室の寧、徳川家康とその息子たち、三男徳川秀忠・次男結城秀

頼たものであることが分かります。また、ここで祈禱を捧げられているのは、豊臣秀頼とその母の茶々、秀吉正室の寧、徳川家康とその息子たち、三男徳川秀忠・次男結城秀

康 四男松平忠吉・五男武田信吉です。関ヶ原の合戦で東軍の家康が勝利を得ますが、合戦後すぐに、徳川家の天下になったわけではありませんでした。吉政は書中で、豊臣・徳川両家筋の具体的な人名を挙げて、各人に御札を差し上げるようにと述べています。当時の大名は、徳川家だけでなく豊臣家に対しても丁寧な態度を示しており、またそれが求められていたのです。この寄進状は吉政の筑後拝領時期についてもヒントを出しています。「筑後において」とあることから、百石が「筑後」の地から寄進されていることが分かります。寄進状は正月14日付なので、この日以前に吉政の筑後拝領が決まっていたということです。通説では正月に決定していたと推測されているので、この文書によってその時期が裏付けられたと言えるでしょう。ここから言えることはわずかなことですが、こうして史料の一片が「事実」として確定され、柳川の歴史を形作っていくのです。

柳川古文書館嘱託 井手麻衣子

編集後記

●ほめるのが上手な人だった。「広報」のようになった。色もよか写真もよか。これが北原二郎先生からの最後の言葉となった。照れ隠しに「なんのですか」と言っていて別れた。きちんとお礼を言わなかったのが悔やまれる。10日はお別れの会。言えなかった感謝の気持ちを伝えに行こう。◎しもやけ、できてますか?ここ数年両足の小指に毎年できて、寒くなるととてもかゆい。風呂で小指をもんだり、ビタミンEが効くらしいと聞いてビタミン剤を飲んだりしているからか症状は現状維持。他の指に広がらないだけましかもしれないが、小指を替えられないものか。(賢治)●結婚後初めて1か月の生活費を集計してみた。結果は目標を大きくオーバー。原因は私のネットショッピングだ。ワンクリックで自宅に商品が届く時代。気になる商品があるとついクリックしてしまう。しかし貯金は大切。次は「ネットショッピングから抜け出す」をクリックか。(和久)

人のうごき

平成24年12月末現在

●人口 70,985人 (前月比-39)
男 33,613人 (-24)
女 37,372人 (-15)
出生 39人、死亡 92人
転入 139人、転出 125人
●世帯数 24,863世帯 (+13)